

希望の輝き23作

盛岡二高美術部・華道部

おでってで合同展



プラザおでって・ギャラリーで開かれた盛岡二高美術部・華道部合同作品展

盛岡二高の美術部の2020年度合同作品展は、盛岡市中ノ橋(上山夕乃部長 部員 18人)・華道部(佐藤通一 部長、部員29人) 通一丁目のプラザおでって・ギャラリーで20

21の両日開かれた。生徒たちが心を込めた花々には一足早い春が輝き、個性あふれる美術作品とともに来場者の目を楽しませた。

展示作品は合わせて23点。華道部の3年11人による合同作品は、ピンポン菊、ツバキ、ストックなどを大ぶりの花器に組み合わせた。四方から見てもバランスが崩れないよう、互いに調整しながら2時間ほどかけて仕上げた。

華道部は「希望」「飛躍」「感謝」と学年ごとにテーマを決めて作品づくりに取り組んだ。黒木朔良さん(1年)はスカシユリやナゲシコを取り合わせ、「大きな花も小さな花も集まって、希望になつていくことを表現したかった」、飯岡幸恵さん(同)もユキヤナギやタニワタリを効果的に使い「希望への第一歩、躍動感を表せたと「思つ」と笑顔を見せた。

美術部は、ミクストメディア(混合技法)や油彩、デザイン、切り絵など、各自が自由に表現した。

「青春」をテーマに、それぞれがA4判の平面に自分自身を表現した作品は、手描きやデジタルのイラストに加え、形のユニークなパスタを画面にびっしりと貼り付けるなど、さまざまな素材で自分たちの今を表現した。

合同展は、違うジャンルの作品に触れ、互いに学び合い、高め合うことで自分の作品づくりに生かそうと、2015年度から開催。6回目になった。

この記事・写真は盛岡タイムス社の許諾を得て転載しています。